

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第994号 平成27年9月7日

益者3楽 損者3楽

論語の「李氏第16」に、「益者3友、損者3友」、「益者3楽、損者3楽」という教えがあります。

その内容を簡単にご紹介しましょう。

まず、「益者3友、損者3友」とは、以下の如くです。

直なおきを友とし、諒まことを友とし、多聞を友とするは益なり。
便辟べんぺきを友とし、善柔ぜんじゅうを友とし、便佞べんねいを友とするは、損なり。

即ち、友とするなら、「素直で正直な人」「誠実な人」「知識の豊かな人」こそ望ましく、友とするのに相応しくないのは、「体裁ぶる人」「人ざわりが良くて誠実でない人」「口先ばかりで調子のよい人」であるという訳です

次に、「益者3楽、損者3楽」については、以下の如くです。

禮樂れいがくを節せんことを楽しみ、人の善を道うことを楽しみ、賢友多きを楽しむは、益なり。
驕樂きょうらくを楽しみ、佚遊いつゆうを楽しみ、宴樂えんらくを楽しむは、損なり。

即ち、人の楽しみには有益なものと有害なものがあり、「禮樂を調節する事」「人の美点をいう事」「学徳の優れた友の多い事」を楽しむのは有益であるが、「驕って我儘にする事」「怠けて遊ぶこと」「酒盛りに耽る事」を楽しむのは有害だという訳です（以上、現代訳「仮名論語」から）。

全国学力調査における児童生徒への質問紙調査の結果を見ると、勉強時間を削ってテレビを見たり、ゲームをしたり、更にはメールのやり取りに多くの時間を費やしている子ども達の様子が浮かび上がって来ますが、まさに、損者3楽を地で行くようなもので、先が本当に思いやられます。

論語というのは、孔子とその高弟の言行を孔子の死後、弟子達がまとめ記録したものです。孔子その人は、紀元前6から5世紀（春秋時代）にかけて活躍した思想家です。こうして見ると、「誰を友とするか」、「何を以て人生の楽しみとするか」といった、人として生きて行く上で大事な事というのは、大昔も今も何も変わってはいないという事です。しかし、現実を見ると、口が上手く、調子のよい人に惹かれ、額に汗して働く等というのは出来るだけ敬遠して、楽しく遊んでいたいという誘惑に何時も晒されていますので、気を引き締めていないと、水は低きに流れるで、

簡単に誘惑に負けてしまいます。

また、「人ざわりは良いが誠実でない人」と付き合っていると、騙されて大損する事もあるかも知れません。最近、特殊詐欺が横行していますから、妙に優しげに近寄って来る人には、要注意です。

「驕って我儘にする事」「怠けて遊ぶこと」「酒盛りに耽る事」という点についても、過ぎたるは及ばざるがごとしという諺どおりだと思います。自己主張も過ぎれば我儘となり、遊びも酒盛りも過ぎれば怠惰となり、信用を失います。

先日、北海道教育委員会は、学校の生徒とドライブに興じた後、一緒にホテルに行った高校の教師を懲戒処分とした事例を公表しました。

問題の教師は、付き合う相手も、付き合い方も、教師としての道に外れてしまっています。恐らく、この教師は、教え子とホテルに行く等という行為が問題である事位は知っていたらと思う。にもかかわらず、やって良い事と悪い事の分別もつかず、欲望のままに行動しようとするなら、教師である事は辞めるべきです。

孔子が活躍した時代にもこうした問題行動を起こす人は沢山いたはずで、論語はそうした人間達へ警鐘を鳴らし続けている訳ですが、「論語読みの論語知らず」という言葉があるように、孔子の力を以てしても、人間の性根を変える事はなかなか容易ではありません。

(塾頭 吉田洋一)